

厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
（総括）研究報告書

医師の労働時間短縮のための手法に関する検討

研究代表者 馬場 秀夫 熊本大学大学院生命科学研究部・消化器外科学 教授

研究要旨

医師の労働時間の短縮のため、タスク・シフティング/タスク・シェアリングが可能な業務のうち、説明と同意の取得等において、定型化可能な業務を抽出し、時間短縮のための資料を作成する

馬場 秀夫
熊本大学大学院生命科学研究部・消化器
外科学 教授

A. 研究目的

医師の時間外労働の上限規制が適用される2024年4月に向け、「厚生労働省の「医師の働き方改革に関する検討会」がとりまとめた報告書において、医師の労働時間短縮のためには「医療従事者の合意形成のもとでの業務の移管や共同化（タスク・シフティング、タスク・シェアリング）」を徹底して取り組んでいく必要があるとされた。現行制度の下で実施可能な業務のうち特に推進するものとして、患者への説明と同意の取得、各種書類の下書き・仮作成、診察前の予診・問診、患者の誘導が挙げられている。

本研究においては、これらにおける定型的な対応が可能な業務を抽出し、当該事項についてのDVD等の資料の作成やその有効性の検証等を行い、各医療機関における実装を進めることで、医師の働き方改革に関わる一連の制度の円滑な運用に資することを目的とする。

B. 研究方法

1年目である令和3年度については究代表者の所属施設における患者からの得る必要のある同意書の取得件数について、各診療科および同意書の種類ごとに集計、分類した。その結果、画像診断、輸血、麻酔等の同意書に関して優先的に作成する資料とした。2年目である令和4年度においてはこれらの結果を基に資料の作成を行った。

C. 研究結果

資料の作成に当たっては、班会議において役割分担を行った。院内の関連診療科ならびに多職種にて検討し、また関連施設や関連学会等にも適宜情報共有を行い、目的と

していた画像診断（造影CT）、輸血、麻酔に関する同意取得の内容について動画を作成した。また、研究代表者の専門分野と関連する消化管内視鏡検査ならびに手術に関する動画についても作成を行った。また、導入に際して、導入前後で実際に医師の労働時間の短縮効果がどの程度得られるかを定量的に検証するために、医師を対象として、アンケート調査を行うこととし、班会議で議論した。内容としては説明と同意の取得に要する時間と頻度、また各医師の資料の利活用に対する意識調査を行う予定である。

D. 考察

今回作成した資料を実際に臨床の現場に導入するにあたり、医師の労働時間の短縮効果がどの程度あるかについて検証する必要がある。また、導入に当たっては資料の内容が患者側にも理解可能か、医師患者関係を阻害しないかについても配慮が必要である。

E. 結論

作成した資料について実際の運用を行い、その有用性について検証し、必要に応じて内容の修正等も検討していく。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
2. 学会発表

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
特になし
2. 実用新案登録
特になし
3. その他
特になし